

管理者所見（27年度反省、28年度決意）

部署：ケアプラン大喜

氏名：平岡 克敏

27年度反省

◇今年度の決意として、「職員の資質向上を目的とした事業所内研修の実施」を掲げていたが、日々の業務に追われるような状況が続き、研修等を計画的に進めることができなかつた。一方で当初の計画にはなかつたが、所内で話し合いを重ね、「特定事業所Ⅲ」の申請を行うこととなり、今年2月より体制が変更となった。

その結果、担当1件当たり¥3,000程度の増収となったが、同時に算定のための用件として①週1回以上の会議の開催、②24時間連絡体制の確保、③ケアマネジャーごとの研修計画の立案などが義務付けられたため、日常の業務としてはすべきことが増えることとなった。

◇ 28年度決意

「利用者 / 家族・地域から信頼される事業所」

地域包括ケアが叫ばれる中、名古屋市においても各区にて在宅医療・介護連携支援センターが開設されたのに続き、6月には「新しい総合事業」がスタートとなるなど、新たな動きが始まっている。そんな中、ケアマネジャーに求められる役割というものも刻々と変化しており、利用者に対する適切な支援を行うためにも、事業所として存続して行くためにも、我々自身が常に学び進化して行かなければならないと感じている。

毎週の会議等を通して現状の問題点の抽出や課題の整理を常に行い、業務の改善に努めて行きたい。事業所全体のレベルアップを図ることで、より多くの案件を担当することができるようになれば、事業所の運営も安定し、より一層地域にも貢献することができると考えている。スタッフ一丸となって取り組んで行きたい。